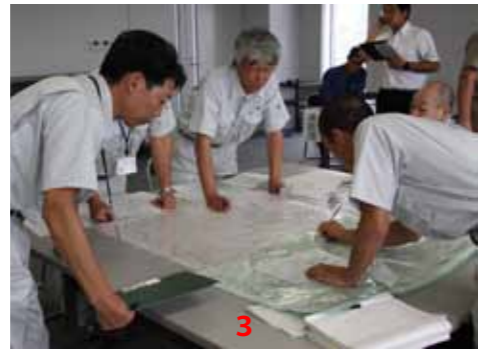




4



3

1_大規模災害訓練／2_市消防団によるポンプ操作／3_大規模災害を想定した図上訓練／4_12月末完成予定の庄原小学校校舎棟／5_自治振興区での防災マップづくり



庄原市制施行 10周年 記念特集

vol.4

安全・安心のまちづくり

合併から10年を振り返るシリーズ。
今月は安全・安心のまちづくりをテーマにお届けします。



1 防災の取り組み

1

えるためには、「自助」「共助」「公助」がバランスよく働くことが重要です。特に大きな災害時には「自助」「共助」が重要な役割を果たすことから、全国的に自主防災組織の結成が進んでいます。本市でも豪雨災害を機に結成の動きが高まり、6月末現在、48の組織がつけられています。しかしながら、全住民に対する組織率は54%にとどまっているため、さらなる組織化に向けた取り組みが求められます。

耐震化事業の取り組み

平成7年に発生した阪神淡路大震災では、建築物が倒壊し多くの死傷者を出しました。これを契機に、昭和56年以前に建築された建物の耐震性能強化が強く叫ばれるようになりまし。

特に学校施設は、多くの児童や生徒などが一日の大半を過ごす学習・生活の場となる施設です。また、地域住民の身近なコミュニケーションの拠点施設でもあり、非常時には避難場所としての防災機能も担うことから、安全な環境を確保

多くの自然災害を 経験した10年

過去、多くの自然災害に見舞われてきた庄原市ですが、この10年は自然災害の発生頻度、規模の大きさともに際立っている印象があります。特に強く記憶に残っているのが、平成22年7月に発生した「庄原市豪雨災害」。川北町篠堂地区・西城町大戸地区を中心に襲った、本市観測史上最大値の時間雨量91ミリを記録した局地的ゲリラ豪雨は、死者1人、重傷者1人、全壊家屋14戸、半壊家屋14戸、一部損壊10戸、浸水家屋37戸のほか、道路・河川・農地に甚大な被害をもたらしました。

全国的にも、東日本大震災をはじめ、昨年の広島市豪雨災害など、毎年のように大規模な災害が起り、この10年は災害列島日本を象徴した10年でもありました。

災害に強いまちづくり

市は、庄原市豪雨災害を機に、翌年度から危機管理課を新設。豪雨災害の教訓を踏ま

することが重要です。このため市教育委員会で、19年11月に「学校施設改善推進計画」を策定し、19年度から21年度の間、耐震性能不足の校舎や屋内運動場など12施設の耐震対策を実施しました。

さらに21年度に策定した「庄原市長期総合計画・後期実施計画（22年度～27年度）」では、庄原中学校・東城小学校・庄原小学校の改築（建替え）を緊急性の高い特定事業に位置付け、23年度に庄原中学校校舎棟、24年度に同屋内運動場、25年度には東城小学校校舎棟の改築工事が完了。本年12月末に完成予定の庄原小学校校舎の改築工事が完了すれば、小中学校の耐震化率は100%を達成します。

全地域共通の告知放送を整備

現在、市民の皆さんに行政情報や緊急情報をお知らせしている告知放送は、合併前の市町で整備されたオフトーク通信、防災行政無線の2つの通信方法で放送しているため、放送内容や運用の違い、サービス提供の終了や老朽化



庄原市消防団 団長
上原清司さん

庄原市消防団は市民の生命と財産を守るという使命のもと、常に危機感を持ち、要請があればすぐに出動する態勢と心構えはできています。本年度から告知放送が整備されますので、団員にも火事現場がすぐに伝わるので参集しやすく、迅速な消火活動につながるものと期待しています。

ただ、こうした役割を担う団員が減ってきています。合併時には1910人いた団員も現在は1690人と約200人も減り、団員の確保が必要です。

消防団員の出動は、災害現場ばかりではありません。災害時には避難所へ避難している住民の方のケアや、女性へのフォローなど男性では不都合な場面もあります。こうした場所で女性団員が活躍しているところも多くあります。東広島市では女子大学生が消防団に加入し、大きな力になっていますので、庄原市でも学生を含めた女性団員の確保に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



2



5

といった課題があります。庄原地域に至っては緊急情報がすぐに知らせる手段がなく、災害時などに即時に情報を流せる手段を求める声が高まっています。

市はこれらの課題を解消するため、光ファイバーケーブルを活用した住民告知端末を設置し、緊急情報や行政情報を音声で届ける「告知放送」の実施を決定。27年度から30年度にかけ整備を進めています。



庄原市PTA連合会 会長
石田泰清さん

子どもたちが安全に学校生活を送れること。それが私たち保護者の願いです。

庄原市は地震が少ない地域ではありますが、今後大きな地震が起きないという保証はどこにもありません。ですので、本年度中に市内の小中学校の耐震化率が100%になるとお聞きし、心強く感じています。

また、学校は災害時の避難所にもなるので、耐震性が高いというのは、一市民としても安心感が違います。

とはいえ、学校施設の耐震化だけでは、子どもの安全を守ることはできません。通学時の安全確保という面では、歩道の整備や横断歩道の設置が必要な危険箇所がまだまだあります。防災・防犯という観点で言えば、学校だけでなく日ごろから家族で話をしておくなど防災・防犯に対する意識を高めておく必要があります。

子どもたちの安全を守るために、PTAとしても学校と連携した取り組みを進めていきたいと思っています。



2



1



4



3

1_ 備北圏域と庄原市の産科医療を考える集い (H 25.11) / 2_ 庄原中学校改築工事完了 (H 26.3) / 3_ 7_ 庄原赤十字病院増改築工事完了。救急医療・高度医療が充実 (H 25.12) / 4_ 東城小学校校舎棟・東城学校給食共同調理場完成 (H 26. 3) / 5_ へき地医療拠点病院による移動診療車運行 (H 24. 7~) / 6.11_ 庄原豪雨災害篠堂川復旧事業完了・復旧記念碑除幕 (H 26. 3) / 8_ 庄原の小児医療を考えるひだまりの会が開催する小児医療学習会。9_ ひだまりの会が広島県いきいき地域づくり賞受賞 (H 25.12) 10_ 休日診療センター開設 (H 25.4)



8



7



6



11



10



9



2 地域医療を守る取り組み

医師不足解消に向けた取り組み

近年、全国的な医師不足による医療崩壊が大きな社会問題になっており、庄原市でも地域医療の確保が課題となっています。

医師の減少、診療所の継承や医師の高齢化、看護師の不足など、地域医療への危機感から平成21年6月、庄原市医師会・庄原赤十字病院・市の3者で「庄原市の地域医療を

考える会」を設立。庄原赤十字病院と診療所の連携強化と、利用しやすい医療体制の構築を目指し、官民協働による地域医療を守る取り組みが動き始めました。

こうした取り組みの中から創設されたのが、「庄原市医療従事者育成奨学金制度」。医師や看護師を目指す人に資金を貸し付け、本市で働く医療従事者を増やすのがねらいです。この制度を利用した2人が23年4月、看護師として

地域医療の拠点を整備

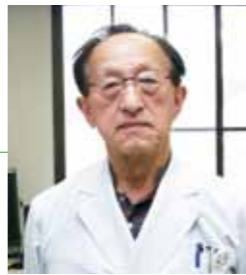
それぞれの地域にある身近な診療所は、「かかりつけ医」として一次医療の役割を担

また、勤務医師の負担軽減策として、25年4月に「休日診療センター」を開設。それまでは、庄原赤十字病院で受診する軽症患者が増え、本来担うべき二次救急医療に支障を来していましたが、そうした患者が減り、勤務医師の負担が軽減されてきています。

ひだまりの会では、24時間365日の診療体制で働く小児科医の負担を減らそうと、病気に関する知識や上手な受診の仕方を学ぶ学習会を開くなど、精力的な活動を継続しています。

同年10月には、市内で唯一小児科がある庄原赤十字病院から小児科医がいなくなるという不安を抱いた母親たちが「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」を立ち上げました。

庄原市医師会 会長
毛利昭生 さん



庄原市の地域医療を考える会では、本市の地域医療を守るべく、医療従事者の確保対策や、庄原赤十字病院の勤務医師の負担軽減対策である休日診療センターの開設、地域医療を考えるシンポジウムの開催など、取り組みを進めてきました。また、休止している庄原赤十字病院の産科医療についても、再開に向けて関係者一丸となって取り組んできたところですので、産科医師を優先的に配置していただくよう、継続して要請していきます。

2025年問題と言われるように、これからは医療・保健・福祉・介護の分野を一体的に進める「地域包括ケアシステム」の構築が求められてきます。そのためには、医療機関、介護職、行政などがお互いに顔の見える関係をつくること。旧市町単位の地域包括ケアを進めるための組織づくりに向け、講習会や啓発活動に取り組んでいきたいと思ひます。

い、庄原赤十字病院は、市内で唯一、救急・高度医療に対応できる総合病院として二次医療の役割を担っています。

広大な面積を有する本市にとって一次・二次医療の連携は重要であることから、庄原赤十字病院と各診療所をつなぎ、紹介患者の症状などの情報共有を可能にする「地域医療連携ネットワークシステム」の運用を23年4月から開始しました。

また、庄原赤十字病院が抱えていた、経年による耐震性の低下や建て増しによる利便性の悪さといった諸課題を解消するため、市は病院の増改築事業へ財政支援を実施。25年12月に増改築が完了し、最新医療機器や手術室の整備によって、救急医療、高度医療機能が充実しました。

今後、庄原赤十字病院には、地域医療の拠点として、より一層の役割が期待されます。